

サステナブル社会で 必要とされ続ける

当社は、1924年の創業以来、「流体を制御する技術」と「材料技術」を活用した当社製品・サービスを通して、CLEAN（環境）・SAFETY（安全）・FRONTIER（最先端技術への貢献）を軸に、グローバル社会の発展に寄与して参りました。当社の市場領域は多岐にわたり、半導体、エネルギー、化学、自動車、船舶、土木・建築、医療・医薬、電池などの分野に、独創的で高品質な製品を提供しています。

技術・製品・サービス・生産技術の開発にも力を入れ、半導体市場のさらなる技術革新やカーボンニュートラル社会の実現など、グローバル社会が発展していく中で、常に

必要とされる企業であることを目指し、挑戦を続けています。

また、当社の企業活動全体がサステナブルな社会の実現に貢献できるよう、「SDGs」「ESG」の取り組みを強化しています。

社是である「品質第一 和衷協力 一步研究」を行動指針として、企業価値向上とサステナブル社会への貢献をともに実現できる、さらに進化したPILLARを創造していきます。

創業100周年を越えてもなお、変革を起こし、成長を維持しながら、社会にとって必要不可欠な企業であり続けることを目指します。



代表取締役社長

岩波嘉信

社是

品質第一 和衷協力 一步研究

パーパス

“社会を支える”未来を創る

CLEAN SAFETY FRONTIER

PILLAR CORE VALUES

Integrity	誠実	プロフェッショナルとして、高い倫理観を持ち誠実に行動する
Innovation	革新	イノベーションにチャレンジし、より良い未来社会へ貢献していく
Progress	改善・改革	改善・改革を積み重ね、本質的な進化を図っていく
Human Resources	人財	事業活動を通して、高い専門性やリーダーシップだけでなく、社会性も兼ね備えた人財を育む
Team	仲間	多様性のある仲間の知恵や能力により相乗効果が生み出されるチームを作る

グループ行動指針

「グループ行動指針」は、株式会社PILLARおよびそのグループ会社の役員および従業員が日々の業務活動を行う中で、特に重要な行動指針となるべき内容について定めたものである。社員はこの指針の実践を自らの重要な役割として、率先垂範する。

グループ行動指針の詳細は当社ウェブサイトをご覧ください
<https://www.pillar.co.jp/ja/about/philosophy/>



創業100年以上、「流体制御」のエキスパートとして 持続可能な豊かな社会の実現に貢献します

当社は創業以来100年以上にわたり、成長する産業が求めるニーズに応え、
また新たな素材にいち早く着目して製品化を目指すことで、持続可能な豊かな社会の実現に貢献してきました。
これからも固有の流体制御技術を進化させながら、独創的で高品質な製品・サービスを提供していきます。

ビジネスの拡大

1924

現在の神戸市灘区で
日本ピラー工業所を創設



創業者
岩波 嘉重

1926

大阪市淀川区に工場を新設し、
工業用漏れ止めパッキンの
本格的生産を
開始



1948

日本ピラー工業株式会社
設立

1967

兵庫県三田市に
三田工場が竣工



1974

創業50周年

1980

本社社屋を新築竣工



1989

京都府福知山市に
福知山工場(現 福知山
事業所第1工場)竣工



1995

大阪証券取引所市場第二部に指定替え

1984

大阪証券取引所市場第二部
特別指定銘柄に

1980

Korea Pillar Packing Co., Ltd.(現
PILLAR Korea Co., Ltd.)を設立

海外市場
への
展開

1993

東南アジアへの販売拠点としてNippon
Pillar Singapore Pte Ltd.(現 PILLAR Seal
Solutions Singapore Pte Ltd.)を設立

1999

米国にNippon Pillar Corporation of
America(現 PILLAR America Inc.)を設立

2001

東京証券取引所および
大阪証券取引所市場第一部に上場

2004

熊本県合志市に九州工場竣工

2001

台湾にTaiwan Pillar Industry Co., Ltd.
(現 PILLAR Taiwan Co., Ltd.)を設立

2003

中華人民共和国にSuzhou Pillar
Industry Co., Ltd.を設立

2007

中華人民共和国にShanghai Pillar
Trading Co., Ltd.(現 PILLAR
Shanghai Co., Ltd.)を設立

2010

アルジェリアにNippon Pillar Packing
Co., Ltd. Alger Liaison Office を設立

2017

大阪市西区に本社を移転

2015

タイ王国にNippon Pillar
(Thailand) Co., Ltd.(現 PILLAR
Seal Solutions (Thailand) Co.,
Ltd.)を設立
アラブ首長国連邦にNippon Pillar
Middle East FZCO(現 PILLAR
Middle East FZCO)を設立

2016

メキシコ合衆国にNPK Fluid
Control Systems Mexico S.A. de
C.V.(現 PILLAR Seal Solutions
Mexico S.A. de C.V.)を設立

2018

ドイツ連邦共和国にNippon Pillar
Europe GmbH
(現 PILLAR Europe GmbH)を設立

2020

新・三田工場竣工



2022

東京証券取引所プライム市場に移行

2023

株式会社タンケンシールセーコウを
グループ会社化
福知山事業所第2工場竣工
三田工場イノベーションセンター竣工

2019

インドネシア共和国にPT. Nippon
Pillar Manufacturing Indonesia
(現 PT. PILLAR Manufacturing
Indonesia)とPT. Nippon Pillar
Indonesia(現 PT. PILLAR Seal
Solutions Indonesia)を設立
Nippon Pillar Corporation of
America Houston Office(現
PILLAR America Inc. Houston
Office)に生産拠点を併設

2024

創業100周年
社名をPILLARIに変更

2020

中華人民共和国にPillar Technology
(Chuzhou) Co., Ltd.を設立

2021

Pillar Technology (Chuzhou)
Co., Ltd.稼働開始

2023

Shanghai Pillar Trading Co., Ltd.
(現 PILLAR Shanghai Co., Ltd.)
Beijing Office を開設

2025

Pillar Technology(Chuzhou)
Co., Ltd.の新工場竣工

1920 創業から続く
開発へのこだわり
Our DNA

1980 電子機器関連に
事業を拡大
Business growth

2000 新事業創出で
競争優位性を強固に
Drive competitive advantage

2020 市場の変革をとらえ、
持続的な成長を目指す
Toward next 100 years

製品・技術の進化

1930

ピラーパッキンが当社初の
実用新案特許登録



1932

ガスケットの生産を
開始



1951

日本初のメカニカルシール
(軸封装置)を開発、
生産開始

1952

ふっ素樹脂製品
(商品名ピラフロン™)の
生産を開始

1969

JIS-B・2404配管用うず巻形
ガスケットの業界初の
JIS認定工場になる

1970

新素材「炭化繊維」を開発、
生産を開始

1981

ISOシリーズ
攪拌機用メカニカル
シールの生産を開始



1994

パッキン内部の浸透漏洩
を対策したEDP
(Emission Defense
Packig)の生産を開始

2002

世界初の画期的なシール機構を実現
した「スーパー300タイプピラーフィッ
ティング™」の生産を開始



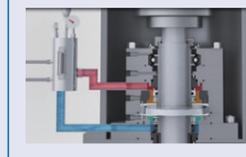
2012

半導体市場向け新型ロータリー
ジョイントの生産を開始



2023

内蔵ポンプ式シーラント循環
システム(PSCC)の生産を開始



2025

ふっ素樹脂基板を使用した電力監視
センサEcoMA™の生産を開始



創業者の岩波嘉重が耐摩耗性の高い船舶用筒型パッキンの開発に成功し、1924年に個人経営の「日本ピラー工業所」を創設しました。1926年に工業用漏れ止めパッキンの本格生産を開始し、1932年には自動車用および船舶内燃機用ガスケットへ事業を

拡大しました。1948年に「日本ピラー工業株式会社」を設立し、1951年には日本初のメカニカルシールを開発・生産しました。1967年に三田工場が竣工し、1980年に本社社屋を新築、翌年にISOシリーズのメカニカルシール生産を開始しています。

以降、半導体製造装置向けふっ素樹脂継手や膨張黒鉛編組パッキンを相次いで投入し、1995年にはISO認証を取得しました。2002年に世界初のシール機構「スーパー300タイプピラーフィッティング」を発表し、2003年に「#2603-EEEテクノブラック」の生産

を開始、2012年からは半導体市場向け新型ロータリージョイントを展開しています。2020年に新・三田工場を竣工し、次世代製品の開発と市場拡大に備えて事業・組織の変革を進め、持続的成長と企業価値の向上を目指しています。

100年磨き続けた素材開発力と豊富な流体制御ソリューション

PILLARの強み① 素材開発力

当社は100年にわたり、ポンプ・バルブ・配管などのさまざまな機器における、温度・圧力・周速・耐薬品性などの異なる条件に合う素材を独自で研究開発してきました。SiC(シリコンカーバイド)・膨張黒鉛・ふっ素樹脂など、材料特性を知り尽くしているからこそ生まれた製品で、幅広い市場・顧客のニーズにお応えしています。今後はさらに、EV・水素・次世代通信などの新たな市場に展開していきます。

PILLARのルーツ「ピラーNo.1」

外航船の機関士だった創業者・岩波嘉重は、粗悪品や蒸気漏れが頻発する海外製グランドパッキンの問題に対し、漏れの少ない国産パッキンの開発が必要と考えました。試行錯誤の末、耐摩耗性に優れた合金製の柱状パッキン「ピラーNo.1」を開発し、安全性と作業環境の改善に貢献しました。素材開発に対する情熱と実証主義に基づくアプローチは創業時からのDNAとして受け継がれ、当社の素材開発力と強みの原点となっています。



ふっ素樹脂

有害薬品の流体制御技術

ピラフロンとは、当社のPTFEを基材とした応用製品の総称で、耐熱・耐薬品・非粘着性に優れた特性を活かし、ガスケットや軸受などのシール製品で流体制御に貢献しています。また、複雑形状の熱熔融成形が可能なPFAも扱い、ふっ素樹脂の知見を活かし半導体向け継手の開発につなげました。



ふっ素樹脂

炭化繊維

アスベスト代替への先駆的研究と挑戦

アスベスト問題化前から代替素材研究を進め、硬度と自潤性を備えた炭素化素材でグランドパッキン「No.6501L」を開発しました。高周速に耐え軸摩耗が少ないノンアスベスト製品として水・海水系でトップセールスを維持。技術は炭素・炭化素材の後継品へ継承しています。



グランドパッキン(No.6501L)

SiC(シリコンカーバイド)

高負荷環境に挑む摺動材の研究

ダイヤモンドに次ぐ硬度と高い熱伝導を持つSiCを摺動材として採用し、原料混合から研削研磨まで一貫生産ラインを内製化しました。強酸・強アルカリ下でも安定しており、石油・化学・造船・電力・鉄鋼などの幅広い分野で使用されています。メカニカルシールをはじめ、多岐にわたる製品にも展開しています。



SiC摺動材

膨張黒鉛

環境規制への挑戦から生まれた革新素材

膨張黒鉛は高温・高圧環境下でも安定したシール性能を発揮し、従来のアスベストパッキンでは難しいプラントで活躍しました。当社はシート状しか使えなかった膨張黒鉛を糸状(ヤーン)へ加工する技術を確認し、完全ノンアスベスト化を加速。環境貢献型製品と新たなビジネスモデルを創出しました。



グランドパッキン(EDP15)

PILLARの強み② 豊富な流体制御ソリューション

1924年の創業以来、PILLARは日本の産業の歩みとともに、時代のニーズを先取りした製品を開発してきました。PILLARの強みは「素材開発力」と「豊富な流体制御ソリューション」にあります。私たちは地道な研究開発を積み重ね、多種多様な素材の特性を熟知しています。

当社グループが有しているノウハウを複合的に組み合わせることで、当社にしかできない技術・製品・サービスをお客様のニーズにあわせて提供しています。例えば、ふっ素樹脂製品においては、切削加工が一般的とされていた形状を射出成形化することで、リードタイム短縮や生産量の向上を実現します。産業機器用のシールにおいては、総合シールメーカーならではの技術の蓄積を活かした提案で、お客様のニーズに的確にお応えします。

海から陸へ

ガスケットの開発

1932年、船舶用技術を応用し自動車エンジン向け金属包みガスケットを開発。爆発ガスの漏れを防ぐ重要部品として品質が評価され、メーカー認定部品に採用されました。石油精製・化学分野へ展開し、2003年には環境規制に対応したノンアスベスト化の高性能ガスケットを上市し需要を拡大しています。



石油化学業界へ

国産初のメカニカルシールを開発

漏れ低減ニーズの高まりを受け、1951年に日本初のメカニカルシールを開発。この製品は石油化学・化学・発電のポンプなどに採用され普及しました。現在も多様なニーズに応じた開発を継続し、業界のリーディングカンパニーとしての地位を維持しています。



半導体市場へ

薬液配管用ふっ素樹脂継手

1984年、ふっ素樹脂製継手「ピラーフィッティング」で半導体市場に参入しました。1988年「スーパータイプフィッティング」を開発。続く「スーパー300タイプピラーフィッティング」で刺さり込みシール構造の採用により性能と施工性を向上。半導体市場から高い信頼を得て、半導体洗浄装置市場で世界シェアNo.1を獲得しています。



建築業界へ

ふっ素樹脂の知見を活かす

2001年、既存のすべり支承をもとに免震構造に対応した「剛すべり支承」を開発し、国土交通大臣認定を取得しました。ふっ素樹脂製のすべり材を採用したこの製品は業界トップクラスの低摩擦係数を実現し、高層住宅や半導体工場などに採用されています。



医療分野へ

新市場開拓は続く

人工透析で使用される塩ビ製チューブの耐熱性・経年劣化の課題に対し、半導体分野で実績のあるPFAチューブと「スーパー300タイプピラーフィッティング」を提案。課題をクリアし、さらに耐薬品性、清浄度も向上しました。2010年上市後、取付指導で信頼を獲得し市場に浸透。高機能を求めるクリニックで定着し新用途開発の契機になりました。



PILLARは進化し続けます

このように当社は、必要なものは素材から内部製作し、全工程を社内一貫生産して、よりクオリティの高い製品づくりを実現してきました。創業から100年間で積み上げてきた「顧客のニーズに応え続ける技術力」を大切に、新たなマーケットのニーズと向き合いながら生産技術を磨き、研究開発を推進していきます。

市場に広がる信頼。 あらゆる分野に技術を活かして。

PILLARが磨き続けてきた、流体を制御する技術。
そのノウハウが活かされた製品は現在、流体制御の分野だけにとどまらず、さまざまな産業に活用されています。
さらなるフィールドへ安全と安心をお届けするため、品質の向上に取り組んでいます。

ピラフロン™

ふっ素樹脂の低摩擦、耐薬品性、耐候性を備えた製品です。
ふっ素樹脂は化学的に安定しているため酸やアルカリに強く、半導体・液晶や建築、情報通信などの先端産業を支えています。
半導体市場とともに成長し、PILLARの主力製品になっています。



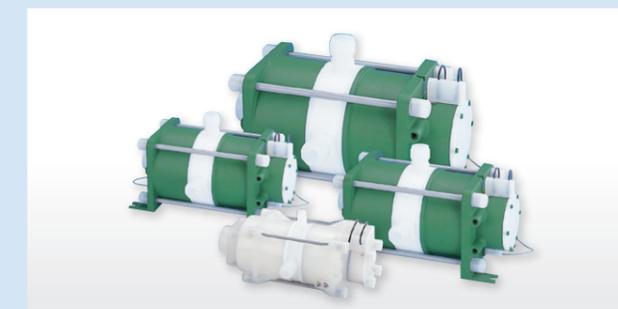
ピラフロン™

ピラフロンとは、ふっ素樹脂製品群の当社登録商標です。
半導体・液晶をはじめ土木建築、情報通信など多様なニーズに対応しています。



スーパー300タイプピラーフィッティング™

酸やアルカリなどの薬液でも使用可能な継手です。清浄度が重要なため、クリーンルームと呼ばれる厳しく管理された環境のもとで製造しています。



スペラ™300ペローズポンプ

ポンプ本体だけで低脈圧を実現し、スムーズな液体の流れを可能にしました。
使用温度やサイズなどで種類が細分化され、さまざまな機器に対応します。

メカニカルシール

危険度の高い流体を制御するため、1951年に開発された気密性の高い製品です。
石油、化学、製紙、製鉄、上下水道、食品、船舶など幅広い分野で活躍しています。
JIS、ISO規格にも適合し、安定した性能を発揮します。



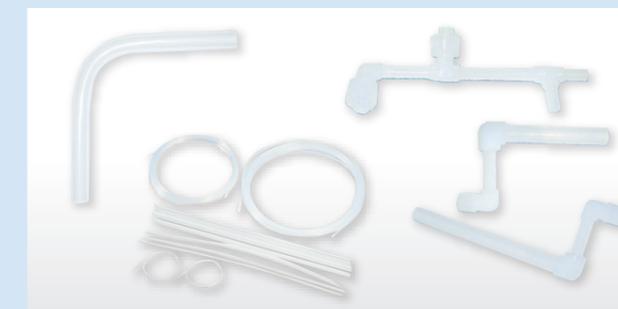
流体制御機器シリーズ

ふっ素樹脂で製作した、吐出精度の高い定量ポンプや各種マニュアルバルブなどの製品も取り揃えています。



溶着チューブ配管・曲げチューブ配管 (PFAチューブ)

PFAチューブを加工した溶着チューブ配管、曲げチューブ配管は、PFA(ふっ素樹脂の素材)の持つ耐熱性、電気的特性などの優れた特性を活かし、半導体関連分野をはじめ、幅広い産業分野で利用されている製品です。



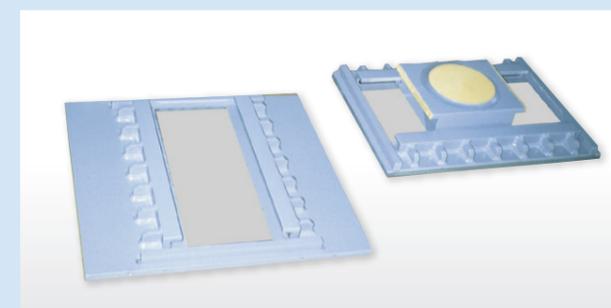
グランドパッキン・ガスケット

PILLARの製品第一号である船舶用柱状パッキンから始まった、流体制御技術によって漏れを防ぐ製品です。
磨き続けてきたシーリング技術は、配管並びに機器の接合部、バルブやポンプの運動部などに活用されています。



ユニトン支承™

免震建物や屋根、連絡橋などの支持部に加わる力を回転・すべり機構によって軽減・吸収します。



PILLAR PC-CLAD™

優れたコーティング技術によって生まれた高周波用途に適したふっ素樹脂基板です。各種レーザや通信基地局などのアンテナに広く採用されています。



MSS メカニカルシール

スプリングなどで軸方向に動くことのできる摺動環と動かない摺動環から構成されており、摺動環の面が互いに接触し、流体の漏れを制御する回転機器用軸封装置です。



二つ割りシール

河川水など水を取水する大型のポンプに使用され、固定側、回転側の摺動部品が分割構造となっているためメンテナンス性に優れたメカニカルシールです。



ドライノンコンタクトシール

有毒ガス、可燃性ガスなど外部に漏らすことのできないガスや、粉体を含む気体を取り扱う機器に使用される非接触形のガスシールです。



ポーラスカーボン

半導体ウエハー用真空吸着盤、高性能フィルムの浮上搬送といったさまざまな用途で用いられる、流体透過性を調整した多孔質のカーボン製品です。



カートリッジシール

清水から高粘度液、凝固性流体まで幅広い流体に適用が可能で、取扱い容易なカートリッジタイプの汎用メカニカルシールです。



ロータリージョイント

メカニカルシールを用いた回転継手で、回転部と固定部の間で流体や気体を移送・供給できます。一般産業や半導体製造装置のCMP工程など、幅広い市場で使用されています。



ABCシール

分解・組込みが容易な、分割形のカーボン・PTFE製摺動材を用いた軸周シールです。プロアだけでなくロータリーバルブのような粉体機器にも多数実績があります。

GP グランドパッキン・ガスケット

グランドパッキン

一般に断面が角形で、スタフィンボックスに詰め込んで用いるパッキンの総称であり、バルブ、ポンプなど回転軸や往復動軸の軸封に使用されるものです。



ピラーフォイル™パッキンシリーズ

ピラーフォイルパッキンは、長寿命・高信頼性などを兼ね備えた製品で、その優れた特性から高温・高圧分野において数多くの実績を有する、世界に先駆けて開発した製品です。ピラーフォイルとは、膨張黒鉛系製品群の当社登録商標です。

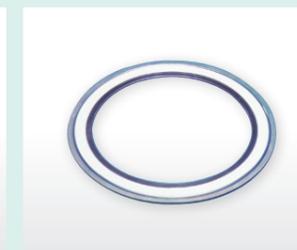
ガスケット

静止部分の密封に用いられるシールの総称で配管並びに機器の接合部に使用されるものです。確かな技術力と信頼性から原子力発電所をはじめ石油精製、石油化学など幅広い産業で採用されています。



うず巻形ガスケット

使用流体毎に材料の組み合わせを変えることによって、幅広い条件に対して良好なシール性を発揮する最も信頼性の高いガスケットです。



ノンアスベストグランドパッキン

炭素繊維、炭化繊維、PTFE繊維、アラミド繊維などさまざまな材料を使用した製品をラインナップし、市場のご要望にお応えしています。なかでも炭化繊維を用いたピラーNo.6501Lは、性能、取扱いなど汎用ノンアスベスト製品の代名詞となっており、発売開始以来、当社売上No.1の回転機用グランドパッキンです。



ノンアスベストシートガスケット

耐薬品性、耐熱性に優れたノンアスベストシートガスケットシリーズで幅広い流体に適用が可能です。

あらゆる流体を制御して、 暮らしと環境の安心・安全に貢献します

当社は、水や油、危険な薬液・ガスなどの流体を制御する関連機器を設計・開発、製造するメーカーです。生活を営むために絶対に必要な場所で使用されており、地球環境保全や省資源、さらには私たちの生命や財産を守るために貢献しています。

主要納入機器



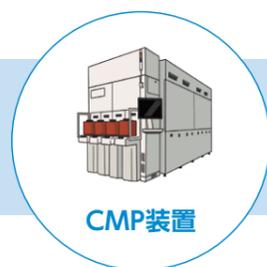
洗浄装置



現像・塗布装置



薬液供給装置



CMP装置



ポンプ

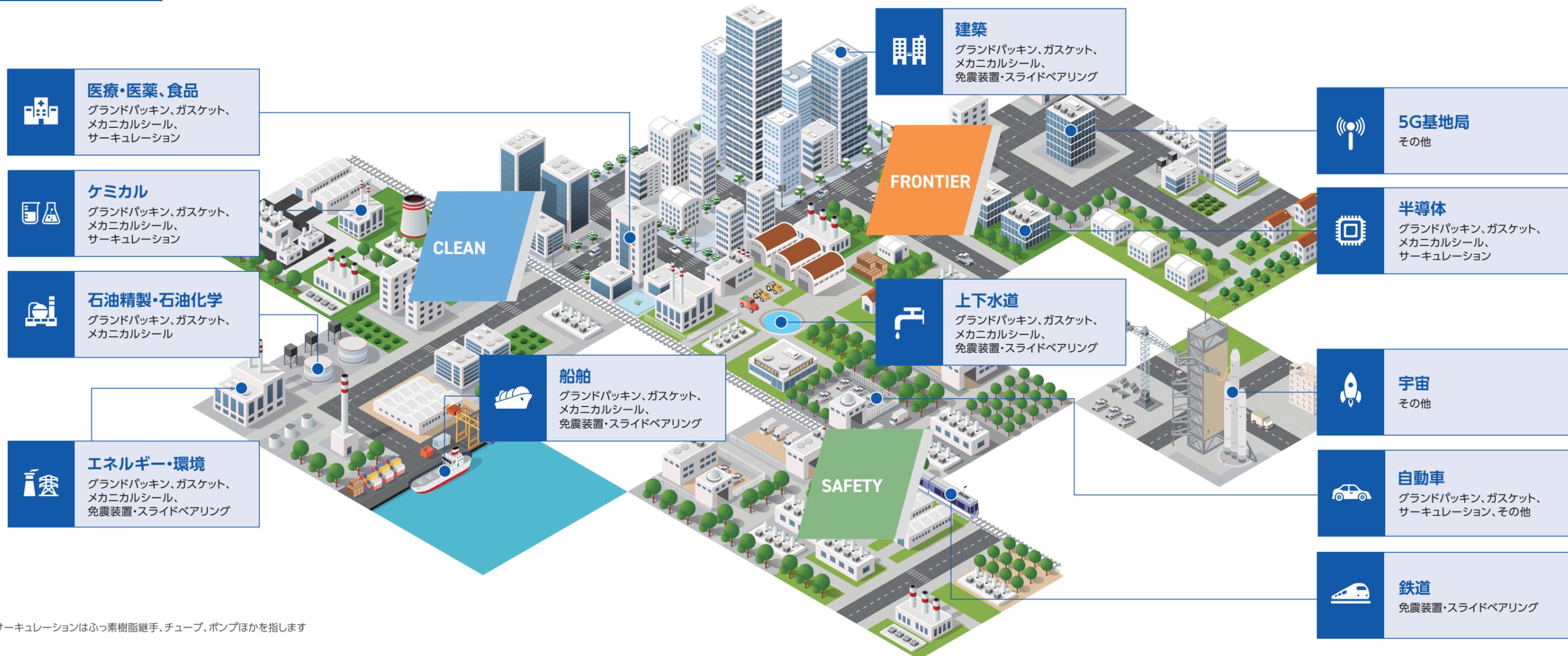


攪拌機



バルブ

主要納入先



※ サーキュレーションはふっ素樹脂継手、チューブ、ポンプほかを指します

コア技術の進化と基盤技術の強化を図り、 パーパスの実現を目指す

CLEAN・SAFETY・FRONTIERを軸にコア技術の進化と基盤技術の強化を図り、さらにDXの活用で独自の価値を生み出すことで、『社会を支える、未来を創る』を実現します。

PILLARのコア技術、研究開発のコンセプト

当社は創業以来、「流体制御技術」と「材料開発」を活用し、市場のトレンドや社会課題の解決に適應する新たな価値や用途を創出すべく、未知なる素材への探求や最新技術の研究開発に努めています。

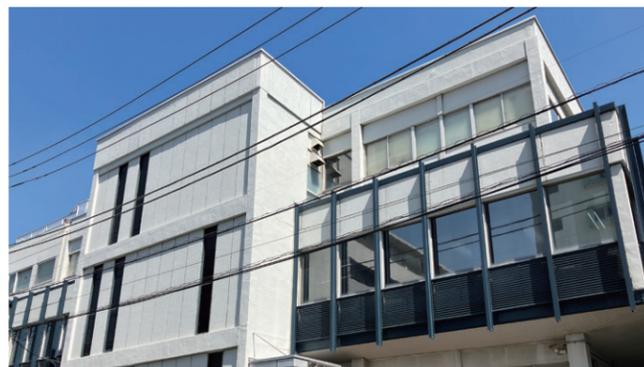
三田工場イノベーションセンターに技術者が集結

2023年10月三田工場内にイノベーションセンターを開設し、2024年11月には福知山の技術部門を集約しました。当社が保有する技術の組み合わせ・融合や、産官学連携による技術・製品開発を強化し、イノベーション創出の拠点として位置づけています。今後も、新たなアイデアや価値の創出を目指していきます。



タンケンシーラセーコウとのコラボレーション開発

タンケンシーラセーコウとの技術の融合によるシナジーとして、コラボレーション開発を推進しており、両社の強みである「カーボン技術」と「非接触シーラ技術」を掛け合わせた高機能な新製品の開発に取り組んでいます。



解析・試験装置の紹介

特許製品を数多く所有する当社では、製品を社会に送り出すまでに、実際の使用条件を想定したいくつもの実験を行っています。最新の検証技術によって支えられている研究開発は、さらなる高みを目指して進化し続けています。

微量分析技術

半導体の微細化に伴うクリーン度要求の厳格化に対応するため、無機・有機ともに多角的に分析できる体制の構築を進めています。



誘導結合プラズマ質量分析 ICP-MS/MS



ガスクロマトグラフ質量分析 GC-MS



全有機体炭素計 TOC計

故障予知に向けたデータ収集・分析試験装置

メカニカルシールの故障予知技術の確立を目的として、故障発生モードも含めた運転条件下における、圧力・温度・トルク・振動などのデータを収集・分析するための試験装置です。



XPS (X線光電子分光装置)

材料の表面や深さ方向に対する原子や分子の結合状態を知ることができる分析装置です。本装置により水素市場向けシール製品の特異な摩耗現象(トライボロジー)の解明に寄与します。



半導体・液晶製造装置用実験設備

半導体市場で求められる過酷な使用条件における性能評価試験を行うために、高温・低温を繰り返すことができる熱サイクル試験装置を保有しています。



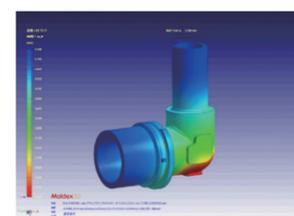
1000kN万能試験装置

製品・材料を高精度に荷重管理しつつ、シール・圧縮・引張試験ができる装置です。24時間連続運転が可能であり、経時変化を連続データで取得することができます。



流動解析

流動解析を活用して成形不具合を事前に予測し、最適な金型を設計しています。金型修正回数の低減や製品の品質維持、向上を図っています。

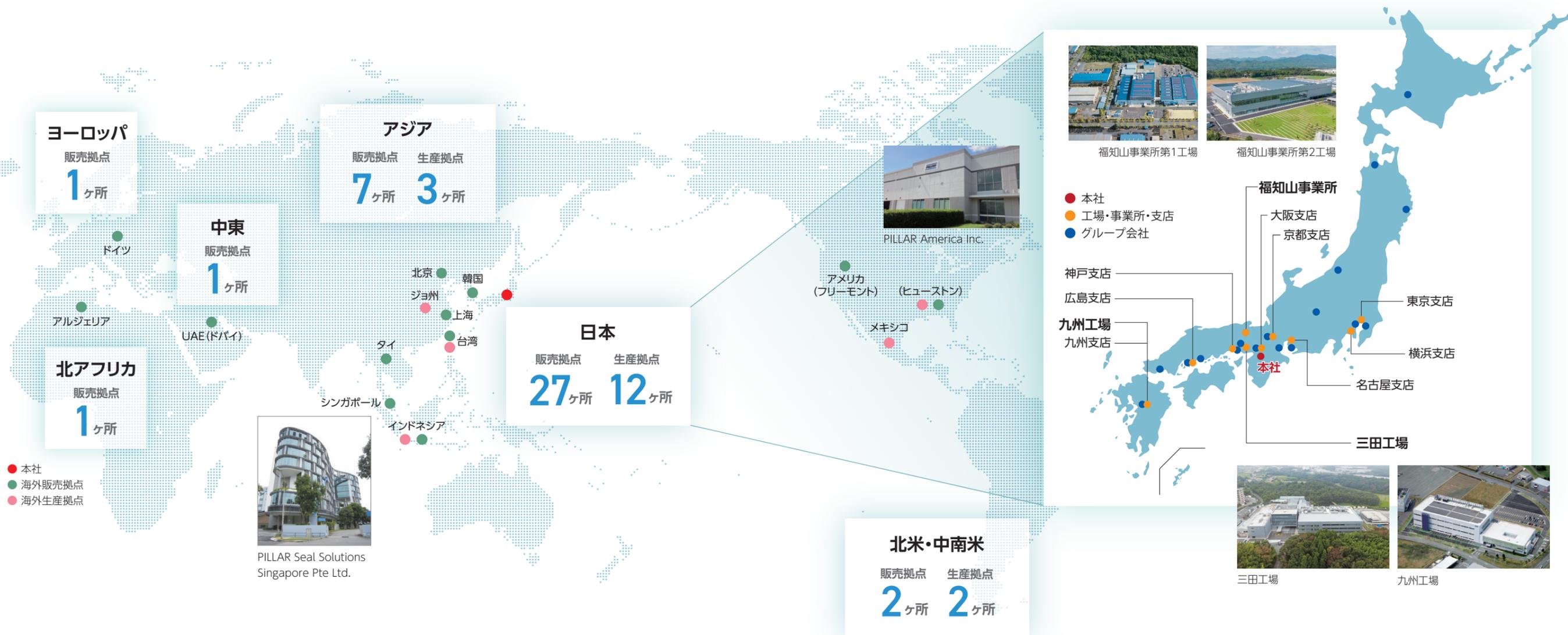


水素雰囲気摩擦摩耗試験機

水素雰囲気下における評価が可能な試験設備や分析装置を導入し、摺動部におけるトライボケミカル反応の解明を進め、製品(材料)開発における性能向上に努めています。



PILLARグループは日本を含む世界の12の国と地域で事業活動を展開しています。



海外拠点一覧

PILLAR Taiwan Co., Ltd. Taipei Office
PILLAR Taiwan Co., Ltd. Takao Factory
PILLAR Shanghai Co., Ltd.
PILLAR Shanghai Co., Ltd. Beijing Office
Pillar Technology (Chuzhou) Co., Ltd.
PILLAR Seal Solutions Singapore Pte Ltd.

PT. PILLAR Seal Solutions Indonesia
PT. PILLAR Manufacturing Indonesia
PILLAR Seal Solutions (Thailand) Co., Ltd.
PILLAR Korea Co., Ltd.
PILLAR Seal Solutions Middle East FZCO
PILLAR Europe GmbH

PILLAR America Inc. Houston Office
PILLAR America Inc. Fremont Office
PILLAR Seal Solutions Mexico S.A. de C.V.
Nippon Pillar Packing Co., Ltd. Alger
Liaison Office

国内拠点一覧

【工場・事業所】
三田工場(兵庫県三田市)
福知山事業所 第1工場、
第2工場(京都府福知山市)
九州工場(熊本県合志市)

【支店】
東京支店 大阪支店
横浜支店 神戸支店
名古屋支店 広島支店
京都支店 九州支店

【国内主要グループ会社】
株式会社タンケンシールセーコウ
株式会社ピラーシールソリューションズ
株式会社ピラー精密
株式会社エヌパイ工業

株式会社エヌパイ産業
株式会社エヌパイ不動産
株式会社ピラー九州
株式会社増子製作所

会社概要 (2025年3月31日現在)

社名 株式会社PILLAR (PILLAR Corporation)
本社所在地 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目7番1号
創業 1924年(大正13年)
代表者 代表取締役社長 岩波 嘉信
資本金 49億66百万円
上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場
主要生産品目 ピラフロン製品(ふっ素樹脂製品)、メカニカルシール製品、グランドパッキン・ガスケット製品
ホームページ <https://www.pillar.co.jp/>

外部評価

ISO認証

国際的な品質マネジメントシステムとして、ISO9001を国内シールメーカーで最初に取得しました(1995年)。現在の認証機関は一般財団法人 日本品質保証機構、認定機関はJAB(日本)およびUKAS(イギリス)です。本社、三田工場および福知山事業所はISO9001の認証を取得しています。



IATF認証

以下の事業所で生産する車載用途製品に対し、自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格であるIATF16949の認証を取得しました(2019年)。IATF16949は、欧米の自動車メーカーと自動車産業関連団体が、不具合の予防、サプライチェーンにおけるばらつきおよび無駄の削減、継続的改善をもたらすために、部品メーカーに対して要求事項を規格化したもので、ISO9001をベースに、多数の固有要求事項が盛り込まれた品質マネジメントシステムです。



登録事業所：株式会社PILLAR 三田工場
認証範囲：ガスケット/パッキン/排気系成形品/ふっ素樹脂基板の設計、製造

ESG関連の外部評価

当社は外部のESG評価機関から評価を受け、ESGインデックスの構成銘柄に選定されています。



パートナーシップ構築宣言

「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」の趣旨に賛同し、内閣府・経産省・中小企業庁が推進する「パートナーシップ構築宣言」を2024年5月に公表しました。



私たちは、安全と環境を守り、
最先端を切り開くことで
一流の流れをつくっていきます。

